

令和５年度第１回柏市放課後子ども総合プラン運営委員会
会議録

1 開催日時

令和６年３月１４日（木）

午後２時から午後３時３０分まで

2 開催場所

ラコルタ柏４階 集会室１・２

3 出席者

(1) 委員

土井委員長，浅野副委員長，小泉委員，木村委員，春本委員，
五味田委員，三好委員

※以下敬称略

(2) 事務局

高木こども部長，宮島生涯学習部長，染谷学童保育課長，沖
本生涯学習課長，伊藤学校教育課長，中田指導課長 他担当
職員８名

4 資料

(1) 第１回柏市放課後子ども総合プラン運営委員会会議資料

(2) 新・柏市放課後子ども総合プラン柏市行動計画

(3) 放課後子ども教室（居場所型）説明資料

(4) 柏市放課後子ども総合プラン運営委員会設置要領

5 開会

6 生涯学習部長あいさつ

7 各委員紹介

8 委員長・副委員長の選任について

9 議事

新・柏市放課後子ども総合プラン期間延長について
事務局より，説明を行い，質疑応答や意見聴取を行った。

（土井）

同プランについて，課題などを洗い出してさらにプラン等策
定の検討をするために１年延長が必要だという認識でよいか。

(生涯学習課)

その通りである。

(土井)

「小1の壁」について、確認のため説明願いたい。

(生涯学習課)

保育園等を利用していた方が小学校に入学した際、児童の保育の受け皿が見つからない状況のことを「小1の壁」と呼んでいる。

他に意見がなければ、「新柏市放課後子どもプラン」の計画期間を1年延長し、柏市の放課後児童対策の検討を行うものとする。

10 協議事項

柏市の放課後児童対策における現状と課題について

(1) 放課後子ども教室（居場所型）の展開と課題について

(2) こどもルームの現状と課題について

事務局より説明を行い、課題の検討を行った。

(土井)

放課後子ども教室は今までは補充学習型でやっていたが、今後は居場所型を毎日行うという認識でよいか。

(事務局)

居場所型を毎日実施する方針である。

(土井)

居場所型の放課後子ども教室とこどもルームの違いとして、利用料が放課後子ども教室は無料、こどもルームは月額1万円となっている。午後5時までは放課後子ども教室におり、それ以降はこどもルームに行こうと考える家庭も出てくると思う。利用料を考えると後の課題になってくると思うが、一体型とするのではなく、それぞれの事業が残って実施するという認識でよいか。

(事務局)

両事業は単独である。こどもルームに参加している児童が居場所型に行ったり、はじめからルームを活用することは可能

である。

（土井）

現在午後５時まで児童を預けている保護者は、利用料が無料である放課後子ども教室に午後５時まで参加させることになること考えられる。こういったことがこどもルームのひっ迫緩和に寄与する可能性があるという認識でよいか。

（事務局）

放課後子ども教室を創設するに当たり、こどもルームのひっ迫状況が念頭にある。今まで午後５時までルームに預けていた人が、費用の安さから放課後子ども教室に参加するのであれば、わざわざ学童に通わなくてもよいと考える人もいると思う。そうすればこどもルームのひっ迫状況が改善する可能性があるので、その狙いもある。

（事務局）

指摘の点は非常に微妙な部分である。見かけ上は正直言ってみ分けるのが難しい。こどもルームはしっかりとした制度があり、設備や運営の基準、職員の配置基準がある、保育園の小学校版のようなものである。一方、放課後子ども教室はある程度内容は用意するが、子どもたちの主体性によって自由に過ごしてもらい、時間内であれば何時に帰ってもよい。

国の発出した放課後児童対策パッケージにおいても、両事業は目的が違おうとしつつ、連携や一体型を呼び掛けている。両事業が連携して一体となるのか、別に新しい制度ができるのか現段階では分からない。今後どのように国が議論するかによって柏市も影響されるだろう。

（三好）

両事業とも学校内における放課後の居場所のみ、柏市の放課後総合プランの中で示されるという認識でよいか。学校内は安心安全だがなじめない児童もいるだろうし、子どもの居場所は学校のみならず児童センターや屋外にも多様にある。自分で選んでいけるような場所が地域にあれば、自分らしく過ごせる可能性が広がるのではないかと思う。

（事務局）

本来の居場所は多様であるべきと考えている。民間が行う放課後子ども教室や児童センター、今後できる複合施設など様々ある。だが今回ここで話すのは国のパッケージに基づいたもので、学校内での活動をベースとして具体的な方策を考えることを目的としている。ただし、民間の誘致等学校外のことについても議論して構わない。

（事務局）

柏市の学童保育の特徴として、現在市内全42校の学区内に43カ所のこどもルームを整備しているが、全て学校の敷地内に整備していることが挙げられる。他市によっては学校の敷地外にルームを整備している自治体もある。先例を見ると、低学年は学校内での預かりだが高学年は敷地外のルームに通うことについて苦言を呈する保護者がおり、一部の自治体ではわざわざ敷地内にルームを整備し直して放課後子ども教室と一体的に行う制度に変更した事例もある。

学童保育課としては、保護者の方が預けて安心できることや子どもの安全を考え、現存のまま学校の敷地内でルームを展開していきたい。

学童に届く要望として、午後5時までの習い事の間だけ見てほしいという声がある。そのような形であれば放課後子ども教室に参加し、必要な時間までいてもらうという利用の仕方が可能。一方、午後5時以降も見てほしいという事であれば、こどもルームとの併用で利用してもらう等、両輪で進めていくのがよいと思う。

（土井）

請願の中で放課後子ども教室の実施にあたり、「無料または数百円程度」と記載があるが、これは放課後子ども教室の話に留まるものであって、こどもルームについては言及していないという認識で良いよいか。

（五味田）

放課後子ども教室について「無料」とあるが、本当に無料でよいのか。先程こどもルームの説明で、成長に課題のある児童が増えていることが挙げられたが、本当にそうだと思う。

資料の中では「危険がある場合はスタッフが遊びを制止する」と記載されているが、安価であることから保護者が気軽に児童を預けることが予想でき、本当に制止できるのか疑問が残る。

また、長期休業は放課後子ども教室がないためこどもルームに行かざるを得ないと思うが、そのような利用の仕方は可能なのか。

（事務局）

夏休みの預かりについてだが、年々こどもルームを解放できる学校が減少している。家庭の状況により、祖父母の家に預けたり、仕事の都合で長期休業中はこどもルームを利用しない方も一定数いる。空いたルームのみ募集をかける。昨年度では15校程度空きがあったが、今年度は10校を切っており、来年度はもっと少なくなると考えられる。夏休みをどう乗り切るかがこどもルームの課題である。

（事務局）

他市を見ても夏休みなどに放課後子ども教室を実施しているかは自治体による。長期休業の実施については、様々な状況や課題を見ながら判断していきたい。セキュリティ面や学校ごとの事情があるので、学校の教室を使う上で調整が必要である。

また、利用料について、他の自治体も基本無料だが、改めて検討が必要である。体験学習等では材料費や実費等支払うことになるが、それとは別に利用料を徴収した方がよいという考えも理解できる。請願を見ても、少額であれば払ってもよいと考える方も多いと思うので、今後検討していきたい。

（五味田）

放課後の使い方についても、ステップアップ学習会は学習という目的があり、指導者もつきやすい。しかし見守りとなると非常に難しい。また、ステップアップ学習会も軌道に乗ってきているが、そこから移行して、指導員をまた探すのは難しいのではという声もある。子どもの見守りは責任の所在が広範囲になるので、難しいと感じている。

（事務局）

放課後子どもたちの面倒を誰が見るのかということについては、会社に委託，地域の方に見てもらおう等様々な考えがあると思う。やはり基本的には地域の方々に子どもを見てもらいたいという考えがあるのでCS等を含めて相談させていただきたいと思う。

ただ、やはり難しい場合もあると思うので、その都度改めて考えていきたい。

（土井）

柏市が放課後子ども教室を居場所型に転換させていくこと、それを6年かけて全校に展開していくことについて委員の中で意見はないか。

（木村）

最近は働いている保護者が多いと本当に思う。子どもたちだけで公園で遊んでいることもあると思うが、雨の日等外に出られないときは大人の目がある場所があれば良いと思う。しかし、けがをした場合等の責任はどのようになるのか不安である。

（浅野）

安全な居場所は大事だと思う。最初は無料であったとしても今後どのように進めていくのか、子どもの人数などを加味して継続的な事業にしなければならないと思う。行政にはそういったことを考えてほしい。

（春本）

自分の子どももステップアップ学習会に参加していて、終わってからこどもルームに通っている。ステップアップ学習会のみ参加の際、お迎え不要と記載があったのに、お迎えがないと帰れないという連絡があったが、これはどういうことだったのか。制度としての棲み分けはできるのか。放課後子ども教室とこどもルームを併用できること自体はよいことだと思う。

（事務局）

心配されるのは十分に理解できる。屋外に出て遊ぶことも考

えられるし，体験の中でケガをしてしまうこともある。保険は加入しているが，指導者側のやり方がしっかりしていないと不要な事故も起きかねない。指導の仕方や研修の仕方を徹底し，こどもルームのように資格制度など採り入れられたらと思う。

お迎えに関して，現在のステップアップ学習会ではお迎えのある学校とない学校がある。通学路の状況等を踏まえ，学校と相談して決めている。お迎えの必要のあるステップアップ学習会に参加している児童が，こどもルームを利用しないで帰宅する場合は，原則としてお迎えが必要である。

（小泉）

学校としては今までステップアップ学習会で，学習に特化して学年も限られていたため，そこが居場所として対象学年も広がり，毎日実施できるのはありがたい事だと思う。

保護者も児童も多様なニーズがあり，ルームと放課後子ども教室の利用の仕方について様々だと思われる。学校としては何人くらいの児童が放課後子ども教室を利用するのか，登録して利用するのか，誰でも参加可能なのであれば誰が来たか等の管理の面で不安に思う。

また保護者から参加児童が来室しているかや早く帰るように促してほしいという問い合わせが学校に来ることも予想されるため，今後もニーズに応じていくのは大変な事だろう。ルール作りや仕組み作りが大事だと思うので，何をどう実施するか，計画や見通しをしっかりと作ってほしい。今後実施しないと分からない課題もあると思うので，学校職員，教室に協力してくれる地域の方々，保護者にきちんとした説明がないとイメージがつかず不安になってしまうのではないかということが学校として懸念点である。

（土井）

これに加え，協力してくれる人がいるのか等の人材確保が非常に心配である。PTAから協力者を呼び掛けることは難しいか。

（木村）

難しいと思う。P T Aの役員も共働きが増え、なり手が減っている状況である。働いている方は放課後子ども教室の時間帯に子どもを預けたい方ばかりであり、協力者側に回るのは難しいと思う。

（五味田）

地域から募集をかけて人を集めるのも難しい。毎日実施するというのがネックである。現在運営協議会の活動協力者は週に数回、曜日を決めてきてくれる人が多い。また、自分の力がこどもたちの役に立った、感謝されたということがやりがいに繋がっているため、連日の見守りに協力してもらうのは厳しいと思う。

（浅野）

相談員も人員を集めるのに非常に苦労しているところである。継続事業にボランティアを組み込むというのは非常に難しいのではないかと感じている。正直、謝礼金が出れば協力してくれるという人がいると思う。

（三好）

人がいればよいという問題でもないと思う。ルームの指導員からも話を聞くが、児童が本当に楽しく過ごせているかというのは、キャパの問題もあるが人材が重要になってくる。給料が出ている人たちでさえ人手不足で色々な人がおり、子どもの遊びや居場所づくりという点で内容が追い付いていないと聞く。指導員の人材育成が重要であり、指導員を指導するように、仲間内だけでも学びあって子どもたちのためにどうすればよいか考えられるくらいの人材が必要だと思う。また、それは地域の方が時間を使ってボランティアでできることではないと思う。例えば、大学生をアルバイトとして活用できることも考えられる。財源を人材の育成や確保に充てられればと思う。

（土井）

様々なところで協力が難しく、人材の確保が難しいと思われるが、事務局はどのようにイメージしているのか。

（事務局）

人をどうやって集めるかは課題の一つである。謝礼金はある程度出せるように来年度の予算はつけているため、無料ということはない。それでも人がなかなか集まりにくいところである。

放課後子ども教室居場所型説明資料にもあるが、他市の状況を見ると、自治体によっては直営で運営しているところも委託に切り替わりつつある。他市同様、民間企業に委託するのもひとつの手段だが、本当にそれでよいのかと思う。地域の方に見てもらうのが子どもたちにとって一番よいのかもしれないが、委託にしている自治体が多いのではないか。

学校で何人利用しているかについて、我孫子市を何回か視察しているが、1教室20人程度で収まっている実態がある。最初は多くの児童が来るかもしれないが、時間がたてば20人程度に落ち着くのではないかと考える。登録については、実施するようにしたい。先程の我孫子市は登録料として費用を徴収しており、少額を保護者に負担してもらうのもよいと思う。

保護者からの学校への問い合わせについて、生涯学習課の担当に繋がるようにできればよいと思う。

ルール作り、仕組みづくりが色々な方面への説明が必要であることについて、教職員、保護者、地域の方、校長会や教頭会を含めきちんと説明をし、理解し合った状態で事業を進めていきたい。

(土井)

内容も魅力的なものでなければ人が集まらないし、ルームのひっ迫緩和等の効果も期待できない。どうしたら魅力があるものになるだろうか。何をしたらよいのか意見を伺いたい。

(春本)

教科の中でも、芸術や体育などを行ってもよいのではないかなと思う。

(木村)

コロナの時期を経た子どもたちが多いので、個々で遊ぶことが多い。他学年と触れ合うような内容があるとよいと思う。

最近は一人っ子の子どもが多いので，異学年が混ざって集団で遊べる事もしてもらえたらよいと思う。

（浅野）

異学年，異年齢等知らない人との交流は子どもたちは意外とすんなり受け入れられる。集団での生活を体験させてあげられたらよいと思う。座学が嫌だと思う子もいると思うので，それよりも様々な体験の提供を是非考えてほしい。

（小泉）

毎日イベントを考えるのは非常に大変であると思う。基本は自由で，何日かはイベントを計画することは大事なことだと思う。子どもたちもそのような日を楽しみにしているし，参加したいと思う子もたくさんいるのではと思う。体験活動が大切だと思うので，なかなか学校でできない事や授業の中で取り組めない事ができるとよいと思う。

また，地域の中で様々な特技を持った人がいると思うので，そういった方に講師となってもらい，地域人材を活かせればよいと思う。

毎日行うのは本当に厳しいと思うので，まずは事業を軌道に乗せられるかが今一番不安な事である。

（五味田）

地域の方を活用するのであれば，特技を持った方は多くいるので，月1回から数回来てもらえば，子どもたちも楽しみになるのではないかなと思う。

（三好）

まずは子どもが主体的に遊ぶということができればよいと思う。遊びにはたくさんの学びがあり，子どものうちに遊んでほしいので，校庭や教室の中を活用して他学年と触れ合いながら自由に遊べる環境だとよいと思う。

（土井委員）

柏市が考えている，居場所型の放課後子ども教室とこどもルームが一体的に行うことは素晴らしい事である。しかし，人間的な問題は大きく，どのように対応していくかが今後の課題である。また，内容を魅力的なものにするために，我々も

知恵を絞って子どもたちを遊びへ誘導していく仕組みづくりが必要だと感じる。